

Ⅱ 豊川市の事例

- ① 「集中や意欲の持続しない児童への支援」(小学校5年生)
～トークン・エコノミー法を取り入れて～
- ② 「自分の思いを表現することが苦手な児童への支援」(小学校1年生)
～通級による指導担当教員が通常の学級に入って、支援する～
- ③ 「感情のコントロールがしにくい児童への支援」(小学校5年生)
～ほめて自信をもたせることで感情をおさえる～
- ④ 「たし算、ひき算のひっ算に苦手意識の見られる児童への支援」(小学校3年生)
～「色分けしたひっ算シート」の活用～
- ⑤ 「読み飛ばしのある児童に対する支援」(小学校5年生)
～「音読用スリット」の活用～
- ⑥ 「計算を苦手としている児童に対する視覚的支援」(小学校4年生)
～A児オリジナルの「お助けカード」の活用～
- ⑦ 「文章を作ることが苦手な児童への支援」(小学校5年生)
～日記指導を通して～
- ⑧ 「文字を書くことが苦手な児童に対する支援」(小学校6年生)
～通常の学級担任との連携を生かして～
- ⑨ 「話すことを苦手としている生徒への支援」(中学校1年生)
～自信をもって自分の考えを表現する～
- ⑩ 「英文を書くことに苦手意識の見られる生徒への支援」(中学校2年生)
～子どもの得意分野を伸ばし、自信をもたせる～



集中や意欲の持続しない児童への支援

～ トークン・エコノミー法を取り入れて ～

【子どもの様子】(小学校5年生)

- 気が散りやすく、一つのことに集中することが難しい。
- 日常的な会話は問題ないが、音読では読み飛ばしや読み違いがある。
- 体のバランスが悪く、友達の机や椅子にぶつかってトラブルになりやすい。

【通常の学級担任の願い】

- 集中して学習に取り組めるようになってほしい。
- 友だちとのトラブルを少なくしたい。

通級による指導の取組

1 児童への支援

- (1) スリットを用いた音読やバランスボールを用いた感覚統合運動を取り入れ、子どもの困り感を軽減するための指導を行った。
- (2) トークン・エコノミー法を取り入れ、課題達成ごとにシールを貼っていき、シールが貯まるとお楽しみ会が実施できるようにした。

H26年度版 ねんど ぼん スモール・ステップ・シート しめい 氏名

- ☆ かだい ひと 課題を一つクリアするごとに、シールを1枚貼って
- ☆ 100枚たまったら、お楽しみ会をします！
- ☆ がんばって100枚ためよう！！

1	2	3	4	5	6	7
11	12	13	14	15	16	17

- ① 音読が1段落できたら1枚、バランス運動が一つできたら1枚など、シールはこまめに与え、少しがんばればシールが増えていくという実感をもたせた。
- ② 1回の授業で10枚程度のシールが貯まるので、100枚を目標枚数とし、100枚貯まった次の授業はお楽しみ会とした。

2 支援の成果

トークン・エコノミー法の効果で、学習への意欲が高まった。集中して音読に取り組み、読み飛ばしが少なくなった。また、バランス運動に意欲的に取り組むことで、運動能力の高まりが見られ、まっすぐゴールに向かって走ることができるようになった。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

通級指導教室でトークン・エコノミー法を行ったことで、集中力を高めることができたので、通常の学級の授業など、いろいろな学校生活の場でもトークン・エコノミー法を取り入れた。

ぼく、ちゃんと読めたよ。次の国語の時間も手を挙げて音読するよ。



国語の時間に手を挙げて音読ができたね。上手だったよ。

2 取組の工夫

- ・ 「6時間、全部席について学習できたら6枚」「国語の時間に挙手して音読できたら1枚」「漢字ノートに1ページ（他の児童は200字だが、A児は100字を使用）漢字を書くことができたら1枚」など、どんな時にシールがもらえるか事前に説明する。
- ・ 「□□くんにつつかってけんかになりそうになったとき、先に謝ることができてえらかったね」など、自分の気持ちをコントロールできたら、ボーナス・ポイントとしてシールを貼る。
- ・ ポイントがたまると、通常の学級担任とA児との二人で授業後にA児が好きな活動をして楽しむ時間をつくる。

成果

- 授業中、注意されることが多かったが、通常の学級でもトークン・エコノミー法を取り入れたことにより、集中して学習に取り組む時間が長くなった。
- 友達との関係が良好になってきた。

自分の思いを表現することが苦手な児童への支援

～ 通級による指導担当教員が通常の学級に入って、支援する ～

【子どもの様子】(小学校1年生)

- 全体への指示は、聞き漏らすことがある。
- 左右を間違えることが多い。
- 初めてのことに緊張し、周囲の様子を見てから行動することが多い。
- 友達から誘われれば一緒に遊ぶが、自ら関わるのが少ない。

【通常の学級担任の願い】

- 人の話を注意深く聞くことができるようになってほしい。
- 自分の思いを伝えることができるようになってほしい。

通級による指導の取組

1 児童への支援

A児は「聞くこと」、「伝えること」に苦手意識をもっており、初めてのことに緊張するので、通常の学級で行う「伝言ゲーム」を事前に実施した。また、通常の学級担任から、友達と関わらせたいとの願いを受け、「伝言ゲーム」のお手本を示してほしいと依頼されたのでそのための練習をした。

- (1) ゲームの進め方を板書した。
- (2) 左右を間違えないよう、右手と左手の絵を掲示した。
- (3) 「声のものさし」を使って練習した。

- (4) 話を聞いて伝える人と、聞いた内容の様子ポーズをとる人の役を通級による指導担当教員と交代して行った。



2 支援の成果

手形を掲示したり、ゲームの流れを板書したりするなど、視覚的な支援をすることで、「伝言ゲーム」を理解し、安心して活動することができた。話を聞いて伝える人と聞いた内容の様子ポーズをとる人の役を両方行うことで、「正しく聞くこと、正しく伝えること」を体験することができ、自信をもって話すことができた。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

国語の授業において「伝言ゲーム」を行うとき、A児が緊張しないで取り組むことができるよう、通級による指導担当教員が通常の学級の授業に入るとともに、A児の集中が途切れそうなどときには、必要に応じて声をかけた。

さらに、通級による指導担当教員と一緒に、通級指導教室で行った「伝言ゲーム」のお手本を示し、学級全体にゲームのやり方を伝えた。

2 取組の工夫

- ・ 左右色違いの手袋を活用し、A児だけでなくその他の児童にも左右を意識させる。
- ・ 学級全体にゲームのやり方を伝え、自信をもたせることで友達と関わることができるようにした。



【国語 1 年下】

成 果

- 通常の学級での授業内容を通級指導教室で事前に行うことで、全体の場で落ち着いて取り組み、少しずつ自分の思いを表現することに慣れてきた。
- 通級による指導担当教員が必要に応じて声かけすることで、集中して話を聞くことができるようになり、聞き漏らしが減ってきた。

感情のコントロールがしにくい児童への支援

～ ほめて自信をもたせることで感情をおさえる ～

【子どもの様子】(小学校5年生)

- 新しいことへの好奇心は旺盛であるが、飽きやすい。
- 感情の起伏が激しく、自己中心的な発想や言動で周囲とトラブルになることがある。
- 集中力が続かず授業中は落ち着かない。先生や友だちの話を聞くことが苦手である。
- 自己肯定感が低く、学習をはじめ各種活動への取組意欲は低い。

【通常の学級担任の願い】

- 周囲とのトラブルが少なくなっしてほしい。
- 忍耐力を身につけ、様々な活動に粘り強く取り組めるようになってほしい。

通級による指導の取組

1 児童への支援

- (1) 「ナンバーチェック」や「まちがいさがし」など、短時間でできるゲームを活動の中心とし、成功体験を積み重ねた。
- (2) 自分で目標タイムを設定したり、スモールステップで少しずつ難しい課題に挑戦したりして、目標を達成できたときはじゅうぶんほめた。

2 支援の成果

自分でできたという成功体験の積み重ねから、落ち着いて活動できるようになってきた。

スモールステップで繰り返し活動することで、一つのことに長く取り組むことができるようになってきた。



【ナンバーチェックに取り組むA児】

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

ほめて自信をもたせるために、A児が熱心に取り組んだことを全職員で共通理解し、多くの職員から声をかけられる雰囲気作りを行った。例えば、「この前、通級指導教室の前を通ったらすごく真剣に勉強していたね。」などと、ほめる場面を多く作った。

朝の会のスピーチで、A児はナンバーチェックの話をした。タイムを決めて挑戦し、目標タイムの9秒をクリアしたことを、生き生きとみんなの前で話すことができた。その後、学級の仲間から話しかけられる様子が見られ、笑顔も見られるようになった。



2 取組の工夫

- ・ A児に会ったら、声をかけるように全職員に伝えておく。
- ・ 休み時間に友達と「ナンバーチェック」ゲームを行うとき、通級による指導担当教員が作成したルールブックを参考にするようにした。

成果

- 多くの先生からほめられたことで自己肯定感が高まり、落ち着いて生活できるようになってきた。
- 応援団に立候補するなど、積極的にいろいろな活動に取り組むことができるようになってきた。
- 友達と関わってコミュニケーションを取る機会が増え、周囲とのトラブルが減ってきた。

たし算、ひき算のひっ算に苦手意識の見られる児童への支援

～ 「色分けしたひっ算シート」の活用 ～

【子どもの様子】(小学校3年生)

- 同じ大きさを字を書くことが難しい。
- くり上がりやくり下がりの計算は、指を使って解く。
- ひっ算をしていると位がずれてしまい、計算ミスが多くなる。
- 計算をしているとイライラしてしまい、泣いたり大声を出したりする。

【通常の学級担任の願い】

- 落ち着いて、正しくひっ算ができるようになってほしい。
- つまづいたときに、泣いたり大声が出たりしないようになってほしい。

通級による指導の取組

1 児童への支援

- (1) ひっ算に必要な基本的な力を、ビジョン・トレーニングやワーキング・メモリーのスキル強化、1位数の暗算のスキル強化で補った。
- (2) 通級による指導担当教員が縦の列で「色分けしたひっ算シート」を作成し、取り組ませた。今どこを計算しているか意識させるため、声に出して計算するよう指導した。



- ① 「赤の列は6たす9だから15」を唱えて、1の位に5を記入し、10の位の先頭に1を記入させる。
- ② 「緑の列は1たす8たす。1たす8は9で、9たす7は16」を唱えて、10の位に6を記入し、100の位の先頭に1を記入させる。
- ③ 「黄色の列は1たす2で3」を唱えて、100の位に3を記入させる。

2 支援の成果

「色分けしたひっ算シート」はA児の視機能やワーキング・メモリーの弱さを補助し、A児のひっ算の作業をスムーズにした。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

「色分けしたひっ算シート」を算数の授業で使った。通級指導教室では、声を出しながら計算を進めたが、通常の学級では、集団の中での活動になるので、声を出さずに計算するよう、通常の学級担任や支援員が声をかけた。

① このシートは計算しやすいみたいね。
ここでは声は出さなくていいよ。

② 通級の先生がくれたんだ。とっても計算しやすいよ。わかった、頭の中でやるよ。

③ このシートはA児だけでなく、他の子にも使えそうだな。



2 取組の工夫

- ・ 色を意識するように声をかける。
- ・ 位をそろえて数字を記入し、正しく計算できたことをほめる。
- ・ 通常の学級でのルールに従って学習を進められるように指導する。
- ・ ひっ算に苦手意識をもっている通常の学級の児童にも「色分けしたひっ算シート」を使って指導する。

成果

- 「色分けしたひっ算シート」の活用は、視機能に弱さの見られる児童に効果的な支援となった。通常使用している5mm方眼ノートでは位が揃えられず困っていた児童も、色を意識して位をそろえ、落ち着いて正しく計算できるようになった。
- 通常の学級担任と通級による指導担当教員が連携し、視機能の弱い児童への支援として取り入れた教材（「色分けしたひっ算シート」）が、他の児童への支援にも活用することができた。